

はじめての漢方診療 十五話 [WEB 動画付] 第2版

はじめての漢方診療 ノート 第2版

三瀧 忠道 著

＜書評者＞ 貝沼 茂三郎（富山大病院特命教授・和漢診療科）

私が三瀧忠道先生から『はじめての漢方診療 十五話』に書かれている内容について直接講義を受けたのは25年前のことである。当時の資料は現在の『はじめての漢方診療 ノート』に掲載されている図表の一部が印刷されたものであり、三瀧先生の診療が終わってから連夜直接講義を受けたことを今でも懐かしく覚えている。そして現在、私が漢方に傾倒するための基礎をしっかりと築くことができたのはこの連日の講義のおかげである。そのため、その時の講義内容が『はじめての漢方診療 十五話』という形で書籍になってから私は自身が行う勉強会のテキストとして本書を使用し、自分一人で読んだ回数も含めると相当な回数、この書籍にはお世話になってきた。そこで今回第2版ではどのように改訂されたのかわくわくしながら第2版を拝読した。

通読してみても感じたことは初版では文面になく、勉強会で三瀧先生から教えていただいたことが第2版では随所によりわかりやすく解説として加筆されていた。さらにA5判からB5判への変更、小見出し、キーワード、まとめが

つくなどのレイアウトの変更もあり、解説者がいなくても独学で内容をより深く理解できるようになったと感じる。また三瀧先生は漢方を広めるために西洋医学的な診断ならびに客観的な評価を重視しているが、その点が第2版でも反映されている。具体的には時代の流れに合わせて、また各専門領域の医師が見ても漢方薬の有用性を客観的に評価することができるよう、症例をいくつか差し替えている。この改訂もまたこれから漢方を学ぶものにとってはその理解を深めるために重要なことであると考ええる。

一方、陰陽から始まる漢方の基本的な考え方に対する柱の部分はまったく変更しておらず、三瀧先生が故・藤平健先生や小倉重成先生から学んだ教えに対する確信、ブレのなさを感じた。また本書は初心者向けではあるが、三瀧先生の頻用処方の中から第2版で追加されている方剤も多数あり、また新しく加わった“漢方診療こぼれ話”も非常に読み応えがあり、臨床経験が豊富な医師にとっても新たな発見ができ、きっと日常臨床に役立つ内容であると考ええる。

三瀧先生は「守・破・離」とよく言われる。これから漢方を学ぼうとする先生方は本書に記載されていることを倣い、何度も繰り返し実践し修め、そして新しい発見があれば『はじめての漢方診療 ノート』に加筆し、まずは自分なりの漢方医学に対する土台をしっかりと固めてほしい。本書は読者の皆さんを漢方の素晴らしい世界へ誘う指南書と確信する。

はじめての漢方診療 十五話 [WEB 動画付] 第2版

● B5 頁 320 2021 年 8 月

定価：5,940 円

（本体 5,400 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04750-0]

医学書院刊

はじめての漢方診療 ノート 第2版

● B5 頁 160 2021 年 8 月

定価：3,740 円

（本体 3,400 円＋税 10%）

[ISBN978-4-260-04774-6]

医学書院刊